



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

## 教育情報化推進支援補助員の派遣について

# ICT活用の 強い味方



学校のホームページの更新が複雑でなかなか進まない。

アンケートの集計に時間がかかる。効率的に処理したい！

タブレットを授業で使いたいけど、設定がわからない。

パワーポイントで教材を作りたいけど、難しそう・・・

**ICT活用で  
お困りごとはありませんか？**

電子黒板には、どんな機能があるの？

そのお困りごと、「教育情報化推進支援補助員」が解決します！！

ICTのことならお任せください。

### ★ 校内研修支援

- 資料の効果的な見せ方
- 機器の使い方講座

支援補助員  
おすすめ

### ★ 授業支援

- 電子黒板一式の活用方法
- タブレット端末の操作説明
- デジタル教科書のインストール
- 教材用の動画編集

派遣回数  
No. 1

### ★ ホームページ作成・更新支援

- リンクの貼り方
- ホームページ作成ソフトの設定、操作説明
- ホームページデータのファイル管理

### ★ ICT環境整備支援

- 各種機器の接続や説明

### ★ 校務支援

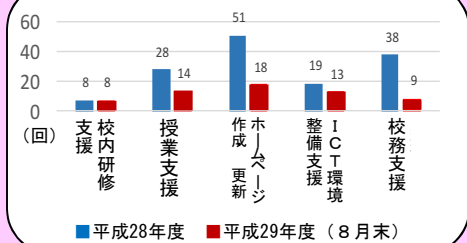
- データのPDF変換 など

(平成28年度以降の主な依頼内容より)

### 学校からの声

- パソコンとプリンターを接続してもらい、使い方もとてもわかりやすく教えてくれた。
- ホームページの更新が難しかったが、更新用の枠を作ってもらい、更新しやすくなった。
- 電話でいつでも相談できるので、とても頼りになる。

### 派遣回数・内容



派遣回数は平成27年度、116回、平成28年度、144回と増えています。今年度は8月末で62回の派遣がありました。



お気軽にご相談ください。

教育情報化推進支援補助員 派遣の申込みは

まずは  
お電話で

TEL 088 (832) 4493

高知市教育研究所 教職員研修班 情報教育担当

お電話いただきましたら、日程を調整のうえ、派遣日・時間を決定いたします。

互いに認め合い高め合う学級づくり ○○流学級の作り方～お互いの技をゲットしよう～

講師：高知市立城西中学校 吉本 恭子 校長



学級経営や授業が素晴らしいと言われる名人の真似事をするだけでは、子どもの反応や学級の様子は同じ結果になりません。結果の違いには、教員の資質として求められる見方や考え方があります。少しの違いで大きく差がつく考え方や、成功するための秘訣を互いに学び合うことがとても大切です。

学級担任に求められる資質 ～ちょっとで差のつく考え方～

その1 「ほめる」をやめて「承認」する

「ほめる」＝「ほめる」ということが刺激になってよい行動が起こる。

→ ほめてくれる人が見ていなかったら、もうやらなくてもいいかなという気持ちになってしまう。

「承認」＝ 事実を伝え、意味付ける。

→ 誰かにほめられるためではなく、その行為ができる自分が「嬉しい」「楽しい」と感じる内発的動機付けにつながる。

その2 子どもの感情はしっかりと受容し、よくない行動は受容しない

まずは、「どうしたの？」（話を聞くよ）、「つらかったね」、「よほどのことがあったんだね」と子どもの感情を受け止める。そして、「気持ちは分かるけれども、行動は変えていかなくちゃいけないよね」と、間違っただ行動について指導をする。

その3 子どもの行動がプラスに動くかマイナスに動くか、そのハンドルを握っているのは先生たち

同じ指導場面でも、できている子どもに声をかけて承認するのか、できなかった子どもを叱るのか。教師がどちらの子どもに着目して、どのような声をかけるかで、子どもの反応は違ってくる。

その4 何をやるのかではなく、なぜそれをやるのか

めざす学級のイメージや、準備してきた活動に対する教師の思い（活動の意義）を子どもに伝えることが大事。

その5 副詞に逃げない言葉がけをする

「ちゃんとやりなさい」、「しっかり考えなさい」では伝わらない。「違いを〇個見つけましょう」、「今から〇分で〇〇をします」のように、その下位概念まで具体的に説明する。

交流の様子

【Aさんの学級】

めざす学級像（学級経営目標）

誰とでも分け隔てなく話し、協力できる学級

1学期の終わりにめざす姿（スモールステップ）

班活動で、時間いっぱい話し合うことができる

現在地の課題（課題とリソース）

仲良しだけで固まる、話し合いが続かない

【グループのアドバイス】

アプローチ（手立て）

体育の授業で、友だちの動きを見てよい点や改善点をアドバイスし合う場面を工夫する

成功の秘訣 1

仲良しの子どもが同じグループに固まらないような方法で、グループをつくる。

成功の秘訣 2

効果的なアドバイスとよくなった実技の両方をみんなで紹介し合うことでアドバイスの質が高まり、より自信をもってアドバイスできるようになる。それにより、子ども同士の自発的な関わりが更に増える。

更によくなる案

子どもの言葉で、誰の、どんなアドバイスがよかったかを共有する。

※ 実践交流シートを使用してグループでアドバイスを交流しました。



【受講者の感想】

- ・ 「ほめる」をやめて「承認」するということが印象深かった。自分は今までほめたらよいと思い込んでいた。確かにほめる場面も必要であるが、何をすることがよかったのか、行動・行為を具体的にあげ、そのことを認める方が子どもに分かりやすく、内発的動機付けになり、次の行動にもつながっていくと思う。
- ・ 「○○流学級の作り方」について、ペアやグループで話し合うなかで、自分が思いもよらなかった案や、知らなかった手法、考え方についても知ることができた。それぞれの教員が、今抱えている課題をお互いに真剣に聞き、アドバイスし合うことで解決の糸口を見付けられた気がする。今日の学びを今後の実践のなかで生かしていきたい。